経営比較分析表（令和6年度決算）

兵庫県　宝塚市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A2	自治体職員
資金不足比率(%)	**自己資本構成比率(%)**	**普及率(%)**	**1か月20m^{3}当たり家庭料金(円)**	
-	59.18	99.99	2,651	

人口（人）	面積(km^2)	人口密度(人/km^2)
227,645	101.80	2,236.20
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km^2)**	**給水人口密度(人/km^2)**
227,503	42.97	5,294.46

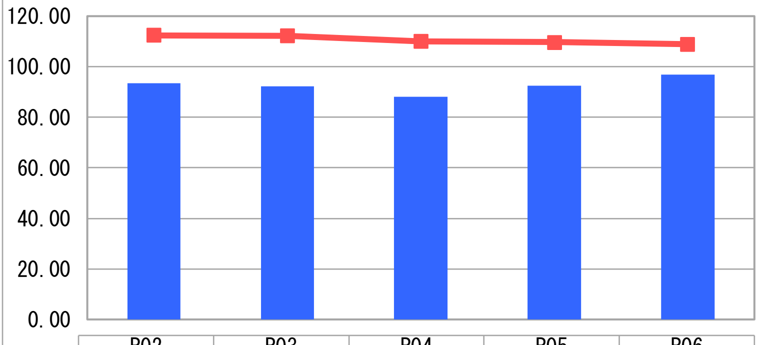
グラフ凡例

■　当該団体値（当該値）
−　類似団体平均値（平均値）
【】　令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)

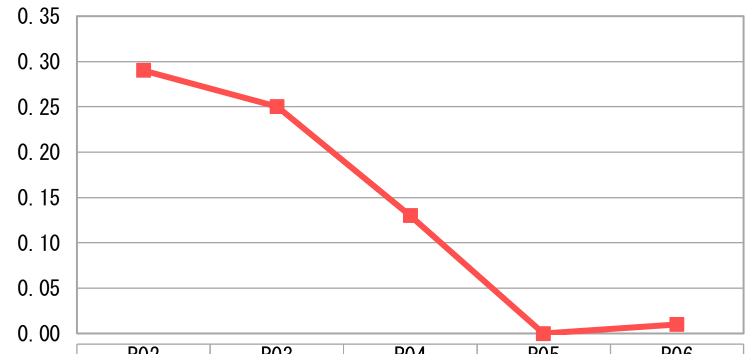
【107.26】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	93.43	92.31	88.22	92.45	96.86
平均値	112.36	112.26	110.04	109.67	108.91

②累積欠損金比率(%)

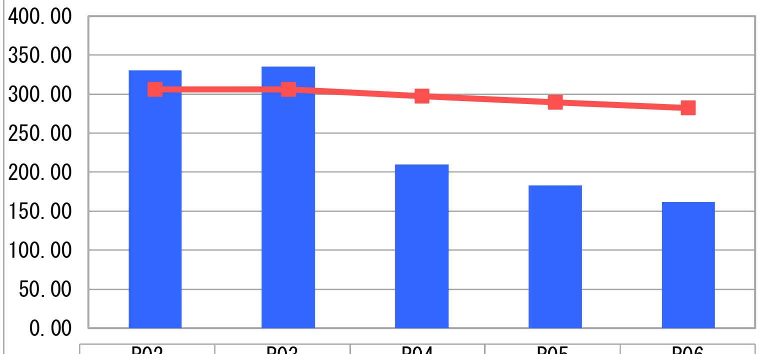
【1.61】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	0.29	0.25	0.13	0.00	0.01

③流動比率(%)

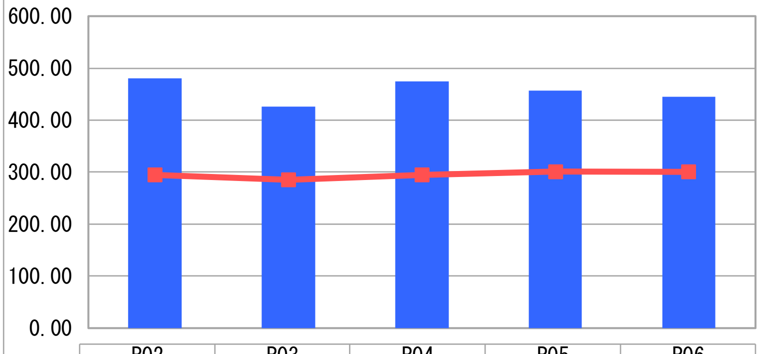
【239.69】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	330.46	335.43	209.75	182.67	162.00
平均値	306.08	306.15	297.54	289.44	282.19

④企業債残高対給水収益比率(%)

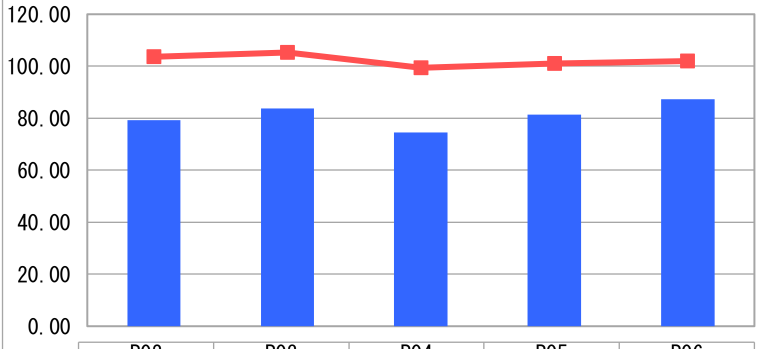
【264.86】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	480.84	426.52	474.59	457.26	444.60
平均値	294.66	285.27	294.73	301.23	300.33

⑤料金回収率(%)

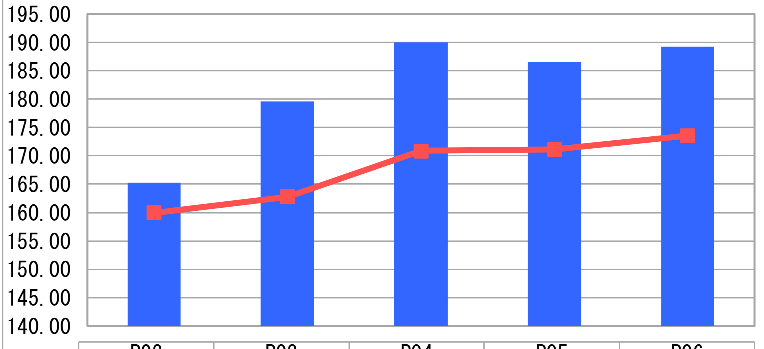
【97.59】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	79.31	83.80	74.49	81.49	87.30
平均値	103.75	105.30	99.41	101.11	102.03

⑥給水原価(円)

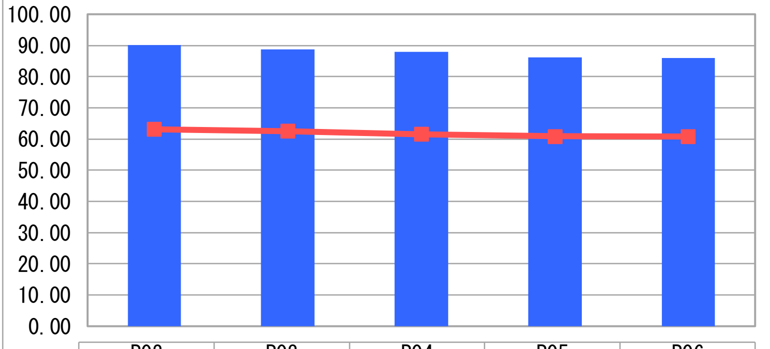
【181.66】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	165.21	179.54	189.95	186.55	189.24
平均値	159.93	162.77	170.87	171.09	173.56

⑦施設利用率(%)

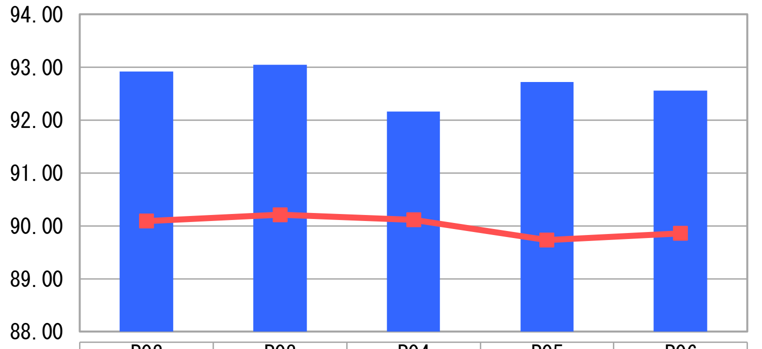
【60.21】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	90.06	88.68	88.00	86.13	85.96
平均値	63.12	62.57	61.56	60.84	60.80

⑧有収率(%)

【89.21】

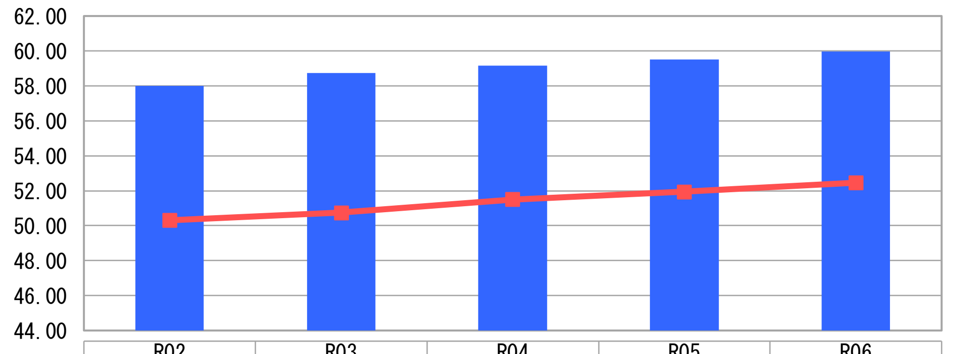


	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	92.92	93.05	92.16	92.72	92.56
平均値	90.09	90.21	90.11	89.73	89.86

2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)

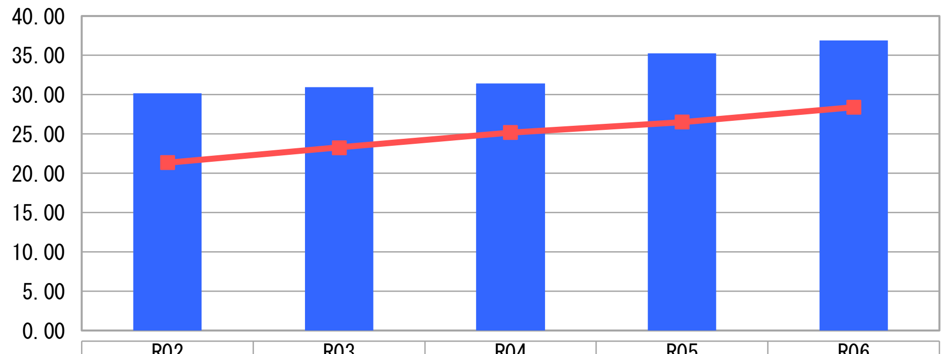
【52.41】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	57.99	58.75	59.16	59.52	59.96
平均値	50.31	50.74	51.49	51.94	52.46

②管路経年化率(%)

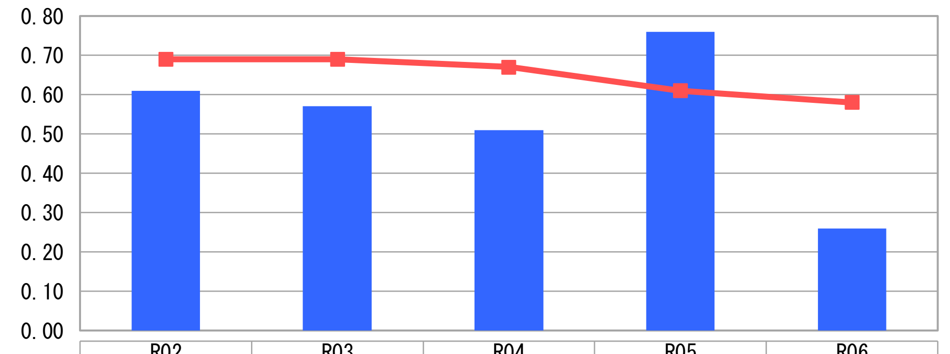
【26.78】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	30.15	30.96	31.41	35.23	36.90
平均値	21.34	23.27	25.18	26.52	28.40

③管路更新率(%)

【0.59】



	R02	R03	R04	R05	R06
当該値	0.61	0.57	0.51	0.76	0.26
平均値	0.69	0.69	0.67	0.61	0.58

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和6年度に44年ぶりの料金改定（値上げ）を実施しました。ただし、令和6年度中は経過措置として、平均改定率19%の半額改定としたことから、7年連続経常赤字が続く厳しい経営状況です。
①経常収支比率は、料金改定により給水収益が増加した一方で、電気料金に対する国からの支援が減少したことや修繕費の増加により、4.41ポイントの改善に留まり、96.86%と100%を下回っています。
⑤料金回収率についても、料金改定により5.81ポイント改善し87.30%となりましたが、なお100%を大きく下回っています。
③流動比率については、大型工事に対する未払金残高が増加したことなどにより20.67ポイント減少し、類似団体平均を大きく下回りました。
④企業債残高対給水収益比率は、料金改定を行ったため、前年度に比べ12.66ポイント改善しましたが、類似団体平均を大きく上回っています。借入利率が上昇傾向であることから、投資財源を過度に企業債に依存し、さらに経営を悪化させることのないよう、今後は企業債の借入抑制による残高縮減に取り組む必要があります。
⑦施設利用率は、安定して高い状況が続いており、効率的な運用ができています。
⑧有収率は、前年度より0.16ポイント悪化しました。類似団体平均より高い水準にあることから、老朽化した水道管路の更新、修繕に引き続き取り組み、現在の水準の維持に努めます。

2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率は類似団体より高い水準で微増しており、②管路経年化率も前年度に比べ1.67ポイント悪化し、類似団体より3割ほど高い水準で増加傾向です。これは高度経済成長期に整備した施設が法定耐用年数を迎えており、実際は使用可能年数を見極めたうえで更新を行っていることが要因となっています。
　令和2年度以降、管路更新に係る事業体制の強化を図ってきましたが、年度をまたぐ工事が増加したため、③管路更新率は類似団体平均より0.32ポイント下回るとともに、前年度に比べ0.5ポイント下回るなど、低い水準にあります。今後はAIなどの新技術も活用し、上下水道耐震化計画に基づき効率的な管路更新に取り組みます。

全体総括

令和6年度は44年ぶりに料金改定を行いましたが、半額改定となる経過措置を実施したため、前年度に比べ全体的に指標は改善傾向であるものの、依然として連続赤字が続いています。また物価高騰や金利上昇など社会状況の変化により厳しい経営状況となっています。今後については、持続可能な水道事業運営に取り組むため、次期経営戦略を策定したうえで、経営改善の取組を推進し、水道の安定供給に努めます。